

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和6年5月29日（水）
- 2 確認箇所
解体タンク部材一時保管施設（その1テント）、ジャバラハウスB
（図1）
- 3 確認項目
増設雑固体廃棄物焼却設備廃棄物貯留ピット内伐採木チップの回収状況
- 4 確認結果の概要

令和6年2月22日に増設雑固体廃棄物焼却建屋内に設置されている廃棄物貯留ピットの火災報知器が動作したことに伴い、同ピット内へ注水（約1,200m³）を行った。その後、3月22日よりラフタークレーンを用いて水没した伐採木チップを回収し、乾燥作業が開始されている。

今回は、回収した伐採木チップの乾燥作業等が行われている3つの施設（解体タンク部材一時保管施設（その1テント）、同（その3テント）、ジャバラハウスB）のうち、2施設（解体タンク部材一時保管施設（その1テント）、ジャバラハウスB）における作業の状況について確認を行った。

その結果、伐採木チップ内の温度監視やしみ出した液体の漏えい対策が実施されるなど、作業が計画に基づき適切に実施されていた。

各施設の状況は以下のとおり。

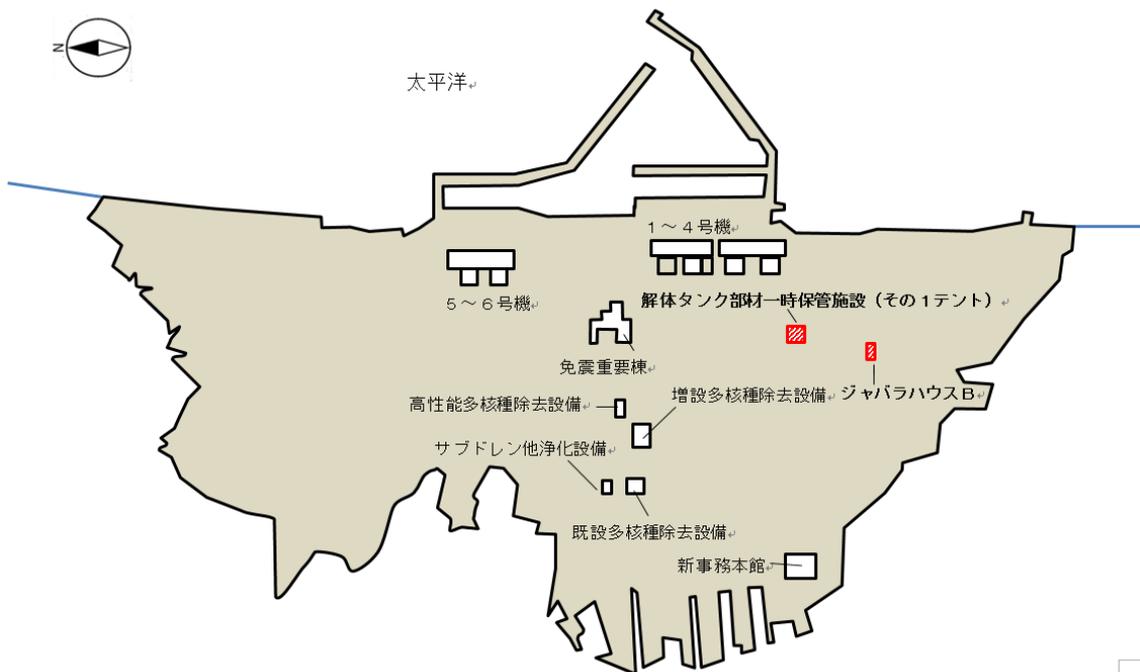
（確認状況）

〔解体タンク部材一時保管施設（その1テント）〕

- ・施設内では一次乾燥が行われており、コンクリート製床面の上に養生シートが設置され、養生シート上に伐採木チップが敷均されており、扇風機や換気ファンを用いて乾燥させる作業が行われていた。（写真1）
- ・伐採木チップはエリア分けされて乾燥作業が行われていた。（写真2）
- ・敷均された伐採木チップ内部の温度を確認するため、温度計が設置されていた。（写真3）
- ・乾燥エリアの周囲には堰が設置されており、乾燥作業中の伐採木からしみ出した水が周囲に漏えいしない対策が取られていた。（写真4）

〔ジャバラハウスB〕

- ・施設内では二次乾燥及び容器収納作業が行われており、一次乾燥後の伐採木チップをふるいにかけて、ふるいに残った比較的大きな伐採木チップは単管パイプで作成された乾燥棚に3段積みをし、扇風機を用いて乾燥させる作業が行われていた。（写真5）
- ・篩分けられた細かい伐採木チップについては、ビニール袋に詰める作業が行われていた。（写真6）
- ・乾燥が終了した伐採木チップについては、ビニール袋に詰められ、金属製1 m³コンテナに収納し施設内で仮置きされていた。（写真7）
- ・金属製1 m³コンテナに収納された伐採木チップ内部の温度を確認するため、温度計が設置されていた。（写真8）



（図1） 福島第一原子力発電所構内概略図

〔解体タンク部材一時保管施設（その1テント）〕



(写真1)
伐採木チップ一次乾燥の状況



(写真2)
エリア分けされた伐採木チップ一次乾燥の状況



(写真3-1)
伐採木チップ内の温度測定状況①



(写真3-2)
伐採木チップ内の温度測定状況②
(約20℃、外気温と同程度)



(写真4)
堰の設置状況

[ジャバラハウスB]



(写真5-1)
伐採木チップ一次乾燥後のふるいかけ作業状況



(写真5-2)
伐採木チップ二次乾燥の状況



(写真6)
ふるいかけ後の細かい伐採木チップのビニール袋詰め後の状況



(写真7)
伐採木チップビニール袋詰め後の金属製1 m³コンテナへの収納状況



(写真8-1)
金属製1 m³コンテナ内の温度測定状況①



(写真8-2)
金属製1 m³コンテナ内の温度測定状況②
(約20℃、外気温と同程度)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。